

near the end of the Year

(波打ち際のボタンを拾って
「た・抜き」の暗号で綴る手紙と共に 瓶に詰めて流す)

そこにいないことを忘れて
いつだって話しかけてしまう頭のなか

耳のうちに未だ残るあなたの
最後の「またね」

(裏切りとは思わないよ)

ほんとう?
大丈夫?

(大丈夫だよ
忘れないでいてくれるなら)

忘れられる訳ないよ

(きみはもう他の誰かと)

ほんとうに?

(しあわせになっていいんだよ)

いいの?

もうじき2021年が終わる
誰もいない海辺
鈍色の空から
降り注ぐひかりの帯

(「他」も「己」も抜きに
互いに化かしあうみたいに
愛しあった日々のこと)

波のまにまに
ぜんぶ流してしまえば

(訪れる新しい年の予兆を
握りしめた手のうちに携えて
きみはその先においきよ)

じゃあね (じゃあね
またね)

またね

(よいお年を)

よいお年を

いつかまたここで会いましょう